

○ 科学技術イノベーション総合戦略 ～新次元日本創造への挑戦～
(平成25年6月7日閣議決定) (抜粋)

第2章 科学技術イノベーションが取り組むべき課題

II. 国際社会の先駆けとなる健康長寿社会の実現

1. 基本認識

我が国は、人類共通の願いである健康長寿社会に最も近い国であると同時に、世界でも類を見ない急速な少子高齢化の進展や疾病構造の変化が進む課題先進国でもある。その我が国が、最先端科学技術を駆使して、国際社会に先駆けてこれらの課題を克服するとともに、感染症をはじめとするグローバル化した健康問題の解決に率先的に取り組むことにより、国民が健やかに豊かで幸福な人生を全うできる健康長寿社会の実現を目指す。関連して、健康・医療関連産業が活用できる健康づくりのエビデンスを創出し、医薬品、医療機器等の国際競争力を強化する。

2. 重点的に取り組むべき課題

頻度は少ないものの職業性疾病を含む労働災害や感染症等は早世の原因となり、健康寿命を押し下げる要因となることから、働く人々の健康と安全の確保や感染症の予防・診断・治療法の開発について、研究面での取組を進める。これらの成果によって、国民の健康寿命の延伸のみならず国際社会にも貢献することが期待できる。

3. 重点的取組 [別表 工程表 **健康長寿**]

(2-3) 感染症の予防・診断・治療法の開発と公衆衛生的研究

①取組の内容

この取組では、免疫学における強みを活かして、感染症に対する薬剤や次世代ワクチンの開発研究、公衆衛生的研究を推進し、国内のみならず国際社会に貢献する。

これらにより、新興・再興感染症に適切に対応できる社会を実現する。

②社会実装に向けた主な取組

- ・ 開発途上国向け医薬品研究開発支援事業

③2030年までの成果目標

- ・ 感染症に対する薬剤や次世代ワクチンの開発

○ 日本再興戦略 -Japan is Back-
(平成25年6月14日 閣議決定) (抜粋)

第II. 3つのアクションプラン

二. 戦略市場創造プラン

テーマ1：国民の「健康寿命」の延伸

② 医療関連産業の活性化により、必要な世界最先端の医療等が受けられる社会

I) 社会像と現状の問題点

がん、難病・希少疾病、感染症、認知症等の克服に必要な我が国発の優れた革新的医療技術の核となる医薬品・医療機器・再生医療製品等を世界に先駆けて開発し、素早い承認を経て導入し、同時に世界に輸出することで、日本の革新的医療技術の更なる発展につながる好循環が形成されている社会を目指す。

○ 健康・医療戦略

(平成25年6月14日 関係閣僚申合わせ) (抜粋)

各論

1. 新技術の創出(研究開発、実用化)

(1) 政府部門における研究開発の推進と重点化

2) 医療分野の研究開発に関する総合戦略の策定及び研究開発の推進

② 研究開発の推進

c インフルエンザ等の感染症に対する次世代ワクチン(新たな混合ワクチン、万能ワクチン、遺伝子組換えワクチンなど)の開発、革新的抗HIV薬やエイズ予防ワクチンの開発、公衆衛生的研究等を推進する。

4) 研究開発の推進体制の整備

② 医薬品・医療機器の開発支援機能の強化

イ 創薬支援ネットワークの創薬関連研究機関は、個々の特性をいかにしながら、密接な連携の下、戦略的に以下の取組を行う。

i がん、難病・希少疾病、肝炎、認知症、感染症、免疫・アレルギー一疾患、生活習慣病、精神・神経疾患、小児疾患等の領域において、実用化に向けた応用研究や一定の実施基準を満たした非臨床試験、国際水準の質の高い臨床研究や医師主導治験を実施するための研究助成により、研究開発の加速化を図る。